

○伊地知美知子* 小林茂雄**

(*文教大、**共立女大)

<目的> 高齢者女性の服装に対する考え及び着装実態の調査結果について、昨年(1994)の第47回大会において報告した。今回は気候・風土の異なるハワイのホレレル在住の高齢者女性を対象に同様の調査を実施し、昨年(1994)の日本の高齢者女性の調査結果と対比し考察した。

<方法> ホノルル在住の日系の高齢者女性(60歳以上の75名)を対象に、1995年8月に質問紙面接法によるアンケート調査を実施した。なお昨年(1994)の調査の場合、被験者は60歳以上の200名、調査時期は8~10月である。調査内容は、日常着のタイプと選択基準、服装に対する考えやおしゃれ意識などである。調査データには平均値の差の検定数量化3類による解析などを適用し、年齢、職業の有無による違いなどをハワイと日本の間で比較検討した。

<結果> ハワイの場合、日常着のタイプで多いのは上衣ではTシャツ、ブラウス、下衣ではズボンであり、日本の場合と比較するとスカートが非常に少なかった。日常着の選択基準は、着心地のよい、着脱しやすい、洗濯しやすい、動きやすいなどの項目が上位にあげられ、日本女性の場合と同傾向であった。服装観やおしゃれ意識は、外出する時には必ず化粧をする、服装を選ぶ時に年齢を意識する、身だしなみはいつもきちんとしている、外出する時には必ず化粧をするなどが肯定的回答が高い項目であり、全体的には日本の場合よりも肯定的に反応する項目が多かった。服装観やおしゃれ意識の反応を数量化3類で解析した結果、おしゃれ肯定、おしゃれ中庸、おしゃれ否定のグループに特徴づけられ、これらに対する年齢、職業の有無などの関係が明らかになった。